

1 目的

構造材の接合部及び接合金物の耐力の基準のほとんどが SPF を基材に試験が行われており、地域材を使用した場合に接合部耐力が明確でないため、設計に支障があることが、2×4 住宅で地域材利用が進まない原因の一つになっていると考える。

今後、2×4 住宅業界全体で地域材利用を促進するためには、代表的な地域材を想定した樹種区分での構造材の接合部及び接合金物の耐力を明確にし、その結果を踏まえて構造計算（壁量計算を含む）が行なえるようにする必要がある。

2 実施内容

2×4 住宅に地域材を構造材とした際に必要となる以下の項目についての耐力評価を行い、その結果を踏まえて構造計算（壁量計算を含む）が行なえるようにする。

- I C マーク、Z マーク表示等の接合金物の耐力
- II 小屋トラスの接合金物の耐力
- III 構造計算で壁倍率を求める場合に使用する釘接合部の耐力
- IV 接合部の耐力を確認する場合に使用する釘接合部の耐力

3 成果と課題

平成 13 年国土交通省告示 1540 号に規定された構造材として使用可能な地域材の材料・樹種の選定及び同 1541 号に規定された地域材を使用した場合の構造材の接合部、接合金物の耐力の明確化により、従来通りの構造計算（壁量計算を含む）が可能であることが分かった。今後この開発事業の成果を公表することで、当社以外の 2×4 住宅供給者でも地域材を積極的に採用できるようになるため、地域材供給者、地域材需要者双方にとってより地域材普及という観点で、それを推進することが出来ると思われる。